

第 5 章 産業振興のための基本的方向

1. 課題

| | |
|-------------|---|
| (1) 稼ぐ力 | ①ブランド力の磨き上げ、魅力・価値の向上 市街地や農山村の景観、商品・農林畜産物・サービス、そこに住む人々の心とそれらを包含する地域全体のイメージで構成される「飛騨高山ブランド」をさらに磨きをかけ、魅力や価値を高めていく必要がある。 |
| | ②客観的なデータ分析等に基づく事業展開、マーケティング機能の強化 経済のグローバル化がすすむ中、持続可能な地域経済を形成するためには、事業者の客観的なデータ分析に基づく事業展開や、マーケティング機能を高めていく必要がある。 |
| | ③新商品・新サービスの開発促進 消費者ニーズを的確に捉えた商品・サービスづくりのほか、時代を先取りした新商品・新サービスの開発による新たな需要の開拓、販路の拡大に取り組んでいく必要がある。 |
| | ④経営基盤の強化、産業構造の多様化 地域経済は、国際情勢や世界経済の影響を受け、急激に変動する時代にある。地域経済の安定性を確保するため、経営基盤の強化やさまざまな産業分野の企業の集積を促していく必要がある。 |
| (2) 市内資金循環 | ①市内資金循環に向けた機運の醸成 市外への資金の漏出を防ぎ、域内調達率を高め、市内経済の波及効果を高めるためには、関係者が共通認識をもって産業間・企業間のつながりを深め、市内資金循環の取り組みを着実にすすめていく必要がある。 |
| | ②市外資本企業との共生 市外資本企業の市内への立地が増加する中、市内の産業振興団体への参画・協力、景観や街並みへの配慮、市内資金循環の促進など、市外資本企業の理解を深め、地域のブランド力向上に向けた連携強化を図る必要がある。 |
| | ③産学金官・異業種連携の促進 大学や金融機関などの専門知識や能力、経験、蓄積されたデータなどを最大限に活用するとともに、異業種の連携による新たな事業展開などを促進し、中小企業者等の経営革新、持続的発展を図る必要がある。 |
| | ④新技術・新生産方式の導入促進、生産性の向上 生産年齢人口が減少し労働力不足が深刻化していく中、新技術・新生産方式の導入促進や農地の集約化などにより、経営の効率化・省力化を図り、中小企業者や農業者の生産性と競争力を高めていく必要がある。 |
| | ⑤産業振興策と土地利用の連動 中心市街地の魅力の向上、農山村の景観の向上、秩序ある土地利用などを推進するとともに、産業振興策と土地利用の考え方を連動させ、まちの魅力と価値を一体的に高めていく必要がある。 |
| (3) 産業を担う人材 | ①労働者の所得の向上 雇用者 1 人あたりの雇用者報酬は県内でも低い水準で推移している中、市内事業所で働く労働者の所得を安定・向上させ、充実した生活を送ることができる環境を整備する必要がある。 |
| | ②生産年齢人口の増加 若者の定住人口が減少しており、地域の活力が失われつつある中、関係人口を築き上げながら、若者の U I J ターン就職者をはじめ生産年齢人口の増加を図る必要がある。 |
| | ③誰もが働きやすい環境の整備促進 人材不足が深刻化している中、誰もが健康に働くことができる環境づくりを促し、若者や女性、高齢者、障がい者、外国人などが能力を活かして活躍できる環境を整備する必要がある。 |
| | ④担い手の育成、次世代への継承 各産業における事業の継続や技術の継承が危ぶまれている中、官民連携による事業承継の取り組みや次代を担う後継者の育成の取り組みを強化する必要がある。 |
| | ⑤クリエイティブ人材の増加 市内には情報通信産業や企画・デザインなどに携わる人材が少なく、市内の商品・サービスの競争力が低下しているため、ITやクリエイティブな分野の人材の増加を図る必要がある。 |

2. 産業振興のための基本的方向

- (1) 飛騨高山ブランドの強化と基盤産業の成長促進
 - ・市民、事業者の共通認識のもと、アウトブランディング、インナーブランディングの取り組みを推進し、意識を高めることにより、地域の魅力や価値をさらに高める。
 - ・客観的なデータ分析に基づくターゲットを明確にした事業展開やマーケティング機能の強化を図るとともに、新商品・新サービスの開発を促進し基盤産業（域外市場産業）の成長を図る。
 - ・新たな産業の立地、企業経営の多角化、新分野への進出などを促進し、経営基盤の強化、産業構造の多様化を図る。
- (2) 産業間・企業間の連関性向上
 - ・商品やサービス、エネルギーなどの市内調達率の向上、市内資金循環の促進に向け関係者が共通認識を高め、機運を醸成することにより、主体的な取り組みを促す。
 - ・市内調達率の向上に向けて、市外資本企業の理解と協力を深める。
 - ・産業分野を超えた異業種の連携を深めることにより、市内資金循環や新商品・新サービスの開発などを促す。
- (3) イノベーションの促進と生産性の向上
 - ・産学金官連携の促進により、専門知識や能力、経験、蓄積されたデータなどの活用を促し、中小企業者等の経営革新、新商品・新サービスの開発などを促す。
 - ・新技術・新生産方式の導入やサービスの効率化などにより、中小企業者の生産性の向上を図る。
- (4) 都市構造と産業振興施策の連動
 - ・観光まちづくりの視点に立ち、まち歩きを楽しむための利便性や回遊性の向上、魅力ある商業空間の創出、街並みの景観保全など、魅力ある中心市街地の形成を図る。
 - ・市街地や農山村の景観の向上、市域内の周遊性の向上、秩序ある土地利用の推進と産業振興施策との連動を図る。
- (5) 産業を担う人材の育成・確保と働きやすい環境づくり
 - ・若者をはじめ産業を支える人々が将来に夢をもち、地域に定着するよう、労働者の所得の向上と生活の安定を図る。
 - ・誰もが能力を活かしながら生きがいをもち、健康に働くことができる環境整備を促す。
 - ・技術やブランド力、精神などが次世代へ継承されるよう、事業承継の円滑化と産業の担い手の育成・確保を図る。
 - ・市内産業の価値・魅力を高め、競争力を強化していくため、ITや企画・デザインなどのクリエイティブ人材の育成・確保を図る。

SDGs・第八次総合計画との関連

SDGs

The diagram shows connections between the 17 SDGs and the five basic directions. For example, SDG 2 (Zero Hunger) connects to the 'Increase earning power' direction, while SDG 8 (Economic Growth) connects to 'Strengthening the base industry' and 'Improving inter-industry connectivity'.

総合計画（まちづくりの方向性とまちづくり戦略）

- 1. 多様な働き方と優れた製品、サービスで財を稼ぐ
 - (3) 品質・価値の向上と情報発信
 - (4) 既存産業の強化と新たな産業の創出
 - (5) 地域循環型経済の構築
- (2) 地域産業の担い手確保と生産性の向上
- 3. 人と人がつながり、安全で美しさと便利さが共存する持続可能なまちをつくる
 - (2) 利便性の高い都市機能とネットワークの構築
 - (3) 地域特性の保全、活用、創出
- (1) 多様な働き方に適応した労働環境の整備
- (2) 地域産業の担い手確保と生産性の向上
- 2. 心身の健康と文化、教育で心豊かな暮らしを実現する
 - (2) 安心して子育てができる環境の充実